

素屋根建設工事 Vol.2

・素屋根の棟が上がりました 2018. 8. 23

素屋根に「棟トラス」が取り付けられ、工事は、素屋根の基本的な骨組みが完成した「棟上げ」の工程まで進みました。

「棟」とは屋根の骨組みの中で最も高い部分で、屋根と屋根が交わる所をいいます。この棟に用いる木材を一般的には棟木と呼びますが、唐門の素屋根は「*トラス」という形式の骨組みを用いていることから、「棟トラス」といいます。棟トラスは約14mもの長さで、予め地上で組んだものを素屋根に取り付けます。

棟上げまで進んだ素屋根の骨組みは、青空を背景に木材ならではの美しさが際立ちます。

※トラス：構造物の骨組の形式のひとつで、三角形を基本に部材を結合したもの。



▲ 長さ約14mの棟トラス



▲ 棟トラスを取り付けている様子



▲ 棟トラスの取り付け(正面)



▲ 棟の上がった素屋根